

Our Narrative Ability

※ナラティブ…物語、物語の。本取組みでは誇れる自分の物語を探し、創り、発信してほしいという意味づけで使用。

笑った、泣いた、考えた！ 私たちのナラティブ能力 成長日記

全学科を対象として実施している「体験をスキルに変えるナラティブ能力育成—サービスラーニングを中心とした自己の物語を探し創り発信する能力の形成プログラム—」も今年で2年目を迎える。昨年に比べ、活動内容の充実やコミュニティパートナー（地域の協力者）との連携も深まり、有意義な取り組みが実施された。今回紹介する取り組みは全17件。あの体験は一体何だったのか、地域社会や自分自身の何をどう反映していたのか、それは自分をどう成長させたのかについて深く掘り下げながらこれまでの体験を振り返ってみる。



とうきびプレミアム収穫体験

7月17日

竹田食育ツーリズム研修

本学が相互協力協定を結ぶ竹田市との事業として竹田市経済活性化促進協議会の協力を得て実現。地域の実情を知り情報発信に役立てることを目的に、食育ネット代表・本山秀樹氏の講演「たけた食育ツーリズムとは」と『竹田創出拠点エリアラボ』の研修に参加。



竹田の町並み散策や地域活性化の醍醐味や商品開発についての話を聞いた。必要な人材は、よそ者・若者・ばか者なのだそう。ばか者の常識にとらわれない姿が地域おこしに必要とされると聞き、自分にも向いているかもしれないと少しだけ思った。
松尾 徳 (2年)

農家民泊

情報コミュニケーション学科23名の学生が「来ちよくれ竹田研究会」に属する10戸の農家に分かれて民泊。ぶどう狩りやうどん打ち、魚釣りや木工作りなど様々なフィールドワークで農家の魅力を発見し、情報発信に役立てよう試みた。



農家民泊での体験は全てが初めてだったので新鮮でとても良い経験となった。何よりも嬉しかったことは民泊先のお父さんとお母さんが、私たちを本物の娘のように思ってくれたこと。帰る時は本当に涙が出そうだった。この出会いを大切にしたいと思う。
齋藤 菜 (2年)



7月18日

とうきびプレミアム収穫体験

早朝4時から活動した竹田市菅生(すごう)でのプレミアム収穫体験。農業研修で滞在中の外国人スタッフの助けを得ながら、とうきび収穫に挑んだ。お楽しみは採れたとうきびの試食。最も糖度が高いといわれる早朝収穫直後のとうきびはメロンにもまさる甘さ！



収穫体験をして、朝早くから働く農場の方々の姿を目の当たりにした。とうきびに限らず、どんな食材のバックにも自分の作るものに誇りを持って汗を流している人たちがいる。それを意識すると食材は一番新鮮でおいしい時に食べなきゃだめだと思った。
瀧本 園絵 (2年)

とうきびフェスタ

『道の駅すごう』で毎年開催される「とうきびフェスタ」。学生は主にとうきび関連の物販を担当。竹田で採れたとうきびの甘さを先に体験した学生は声を大に胸を張って商品を売り込み、イベントの盛り上げに努めた。



とうきびフェスタでは菅生地区で採れたスイートコーンの販売スタッフとして働いた。対面販売のバイト経験を活かして、笑顔と大きな声を心掛けた。受け身で参加するのではなく、積極的にコミュニケーションをとり行動することが大事だと思った。
久保田 美加 (2年)

7月23日

SAEMON23

(第37回清正公二十三夜祭歩行者天国)

旧熊本藩の飛び地であった鶴崎地区で毎年開催される祭り。主催は鶴崎商工青年部。本学は第31回から参加しており、今年もダンスを筆頭に会場内のゴミを収集するエコステーションや子どもが楽しめるワークショップを企画・運営した。



昨年に続き2回目の参加だったが今回は全体の委員長として活動した。参加者のほとんどが1年生だったが、先輩と後輩という関係ではなく仲間として活動できるように心掛けた。みんなにはサエモンが終わった後も一緒に活動した仲間として何か残せていたいと思う。成松 美由紀 (2年)

8月7日

セタブロードウェイ2010

大分駅前から昭和通りまでを歩行者天国とする大分七夕まつりの中日に開催された「セタブロードウェイ2010」。主催は大分青年会議所。フィナーレでリリースする1万個の風船づくりと法華クラブ前の特設会場の運営やステージパフォーマンスに参加。



私は綿菓子ブースを担当した。当日はお昼から作り始めたのだが、時間が経つにつれ綿菓子が袋がしまり、詰めの作業が大変だった。しかし、看板作りから最後までみんなと楽しく活動ができ、夏のいい思い出になった。また参加したいと思う。
太田 有里紗 (1年)



8月25日~29日

第35回 湯布院映画祭

1976年、湯布院町の村おこしと大分市の映画ファングループが意気投合して生まれた日本で一番古い映画祭。全員ボランティアによる実行委員形式で、会場の設営から片付けまで映写以外のすべての作業を実行委員が行う。



8月に催された湯布院映画祭にスタッフとして参加した。私が湯布院映画祭のボランティアとして参加したのは初めて。5月初めから会議などにも参加した。裏方の大事さと接客の大変さを実感した。多くの人が映画を見に来てくれたことがとてもうれしかった。
中村 優伽 (1年)